

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 7 月 7 日 (2005.7.7)

【公開番号】特開 2002-132263 (P2002-132263A)
 【公開日】平成 14 年 5 月 9 日 (2002.5.9)
 【出願番号】特願 2001-158994 (P2001-158994)
 【国際特許分類第 7 版】

G 1 0 H 7/02

G 1 0 H 1/00

【F I】

G 1 0 H 7/00 5 2 1 K

G 1 0 H 1/00 1 0 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 10 月 29 日 (2004.10.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

時間管理情報とイベントデータとを含む音楽コンテンツデータに基づいて、音源ハードウェア制御データを生成するソフトウェア処理手段と、

所定量の前記音源ハードウェア制御データを記憶することのできるバッファメモリ手段と音源手段とを内蔵し、前記ソフトウェア処理手段から供給される音源ハードウェア制御データに基づいて楽音を生成する音源ハードウェア手段とを備え、

前記ソフトウェア処理手段は、前記音楽コンテンツデータに含まれる少なくとも前記イベントデータを前記音源ハードウェア手段が処理可能な固有のデータに変換し、前記音源ハードウェア制御データを前記変換された変換データと時間管理情報とを含んだデータとして生成し、

前記音源ハードウェア手段は、前記バッファメモリ手段に未だ読み出されていない音源ハードウェア制御データが常に存在するように前記ソフトウェア処理手段に対して音源ハードウェア制御データの転送を要求すると共に、前記バッファメモリ手段から読み出した前記音源ハードウェア制御データに基づいて、前記時間管理情報に基づくタイミングに達する毎に前記変換データに基づいて楽音を生成することを特徴とする楽音生成装置。

【請求項 2】

前記音楽コンテンツデータを記憶する記憶手段を備え、

前記ソフトウェア処理手段は、処理に余裕がある時間を利用して前記記憶手段に記憶されている前記音楽コンテンツデータを前記音源ハードウェア制御データに変換する処理を実行し、変換された前記音源ハードウェア制御データを前記記憶手段に記憶するようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の楽音生成装置。

【請求項 3】

前記音源ハードウェア手段は基準時間単位毎に発生されるクロック信号をカウントするカウンタ手段を備え、前記ソフトウェア処理手段から供給されたスタート信号に応じてカウントを開始する前記カウンタ手段のカウント値が、前記音源ハードウェア制御データ中に含まれている時間管理情報が示す値以上になった際に、該時間管理情報に続く音源ハードウェア制御データ中の楽音生成用のパラメータを音源制御レジスタに書き込むようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の楽音生成装置。

【請求項 4】

任意の演奏開始位置のデータを記憶するポイントレジスタ手段を備えており、前記音源ハードウェア手段は、該ポイントレジスタ手段に記憶されている演奏開始位置のデータに対応する位置からの音源ハードウェア制御データに基づいて楽音を生成するようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の楽音生成装置。

【請求項 5】

前記ソフトウェア処理手段において、前記音楽コンテンツデータを前記音源ハードウェア制御データに変換する際に、時間管理情報が同値とされると共に、楽音生成用のパラメータを音源制御レジスタに書き込むアドレスを示すインデックス情報が連続する場合は、前記時間管理情報に続くインデックス情報を先頭のインデックス情報とし、該インデックス情報に続く楽音生成用のパラメータを、連続するインデックス情報に対応している複数のパラメータとするように変換することを特徴とする請求項 1 記載の楽音生成装置。

【請求項 6】

前記音源ハードウェア手段は基準時間単位毎に発生されるクロック信号をカウントするカウンタ手段を備え、前記ソフトウェア処理手段から供給されたスタート信号に応じてカウントを開始する前記カウンタ手段のカウント値が、前記音源ハードウェア制御データ中に含まれている時間管理情報が示す値以上になった際に、該時間管理情報に続く音源ハードウェア制御データ中の楽音生成用のパラメータを音源制御レジスタに書き込む場合に、前記パラメータが複数のパラメータデータから構成されている場合は、前記インデックス情報が示すアドレスを 1 づつインクリメントしながらそれぞれのパラメータデータを、前記音源制御レジスタに書き込むようにしたことを特徴とする請求項 5 記載の楽音生成装置。

【請求項 7】

請求項 1 ないし 6 のいずれかに記載の楽音生成装置を備える携帯端末装置であって、前記ソフトウェア処理手段は、携帯端末機能処理をメイン処理として実行するようになされていることを特徴とする携帯端末装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記第 1 の目的を達成するために、本発明の楽音生成装置は、時間管理情報とイベントデータとを含む音楽コンテンツデータに基づいて、音源ハードウェア制御データを生成するソフトウェア処理手段と、所定量の前記音源ハードウェア制御データを記憶することのできるバッファメモリ手段と音源手段とを内蔵し、前記ソフトウェア処理手段から供給される音源ハードウェア制御データに基づいて楽音を生成する音源ハードウェア手段とを備え、前記ソフトウェア処理手段は、前記音楽コンテンツデータに含まれる少なくとも前記イベントデータを前記音源ハードウェア手段が処理可能な固有のデータに変換し、前記音源ハードウェア制御データを前記変換された変換データと時間管理情報とを含んだデータとして生成し、前記音源ハードウェア手段は、前記バッファメモリ手段に未だ読み出されていない音源ハードウェア制御データが常に存在するように前記ソフトウェア処理手段に対して音源ハードウェア制御データの転送を要求すると共に、前記バッファメモリ手段から読み出した前記音源ハードウェア制御データに基づいて、前記時間管理情報に基づくタイミングに達する毎に前記変換データに基づいて楽音を生成している。

また、上記本発明の楽音生成装置において、前記音楽コンテンツデータを記憶する記憶手段を備え、前記ソフトウェア処理手段は、処理に余裕がある時間を利用して前記記憶手段に記憶されている前記音楽コンテンツデータを前記音源ハードウェア制御データに変換する処理を実行し、変換された前記音源ハードウェア制御データを前記記憶手段に記憶す

るようにしてもよい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

さらに、上記本発明の楽音生成装置において、前記音源ハードウェア手段は基準時間単位毎に発生されるクロック信号をカウントするカウンタ手段を備え、前記ソフトウェア処理手段から供給されたスタート信号に応じてカウントを開始する前記カウンタ手段のカウント値が、前記音源ハードウェア制御データ中に含まれている時間管理情報の値以上になった際に、該時間管理情報に続く音源ハードウェア制御データ中の楽音生成用のパラメータを音源制御レジスタに書き込むようにしてもよい。